

# 事業完了報告書（実行団体）

事業名:	日常に困難を抱える子と保護者への支援
資金分配団体名:	公益財団法人信頼資本財団
実行団体名:	一般社団法人育ちとつながりの家ちとせ
実施時期:	2021年5月～2022年2月
事業対象地域:	京都府近郊
事業対象者:	困りを抱えた子どもや若者とその家族

Version 3.2

日付: 2022年3月10日

## I. 事業概要

事業実施概要	子や若者の引きこもり、不登校、行き渋り増加という社会問題に対して又は予防策として、発達障害等の生きづらさ、育ちづらさを抱える子や若者にフリースクール事業や親子通園事業の中で遊び、活動を通じてソーシャルスキルトレーニングや身体のワーク、認知トレーニング、学習等を応用行動分析学に基づいた療育的支援として提供した。その結果として、将来社会につながり安定した生活を送り、自己実現や社会活動を行うことができる基盤が積み上げられている。同時に保護者に家庭での関わり方を伝え、子への適切な関わりを継続して行えるよう支援を行った。また経済状況に関わらず脳の可塑性が期待できる幼い時期から適切な支援を受けられるよう低所得家庭への無償支援サービスを行うと共に「子どもの行動・親のきもち表現シート」を用いて支援効果の測定を行った。サブスクリプションモデルを導入し、必要とする誰もが低価格で当法人の療育メソッドを学べるツールとして動画コンテンツ等を作成している。指導者（法人スタッフ向け）スキルアップ、支援者（保護者向け）の育成にも取り組んだ。
--------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	助成期間中当法人に関わった子が検診等で見過ごされてきた数は34/46人、他の相談機関に相談していたが状況が悪化していた数は46/46人となり、成人の引きこもりのケースの多くは幼少期の兆候を見逃しているのではないかとこの設定は妥当であったと言える。家庭内のもめ事としては想定していた貧困、虐待、家庭内暴力に加え、ネグレクト（問題に気付かず対応できないという意味含む）、モラルハラスメントがあった。コロナを機に引きこもりになったケースもあり、課題設定は妥当であり、想定していた対象者へのリーチはできたといえる。無償サービスについては、実施するサービスを調整変更し、より実態に合わせた形で提供した。指導者や支援者育成については、順調に機能しており底上げができ、担当できる分野の増えたスタッフが3名居た。動画コンテンツについては実際に販売してみたが、内容の吟味、料金設定等で工夫をする必要性を感じたため、無料コンテンツを窓口としてサブスクリプションへ誘導してできる形に修正変更した。
-------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
生活困窮者	学習機会の不足/格差	①コロナによる収入の影響を受けている/受けていないに関わらず、「非課税世帯」もしくは「準保護世帯」でありさらに預貯金が300万円以下の世帯で、生きづらさや育ちづらさ等の困りのある子（就学前・就学後・卒業後問わず）と保護者が、A～Iの支援を無償で受けられる。虐待やネグレクトを生まない、適切な養育環境を整えることに寄与している。	①A～Iの支援を無償で受けられる子と保護者が10組。 A:初回カウンセリング（3000円/h） B:特別児童扶養手当受給フォロー（3000円/h） C:関わり方トレーニング（20,000円/1.5h） D:フォローカウンセリング（3000円/h） E:フリースクール利用週1回（13,500円/月） F:セッションコンサル（8,000円/h） G:発達コンサルティング（10,000円/h） H:訪問支援（5,000円/h） I:LINE相談（50,000円/月）	①新規又は既利用者の中で利用に至る子と保護者10組分について、「表現シート」の数値がキープ又は改善しているかどうかを確認する	計12組の親子に支援額の上限を164,000円/組として、A～Iの支援を親子の状況に合わせて実施。当初決定した10組の内9組は満額利用したが、1組が124,000円利用後に支援を中断したため、新たに40,000円の枠で1組募集し支援を開始したが20,000円利用後保護者の鬱病悪化により中断。更に1組募集し、20,000円分支援を行った。「表現シート」による評価は別添資料参照。	これまで経済的事情により受けられなかったプログラムを受ける、フリースクールの利用回数を増やす等それぞれの親子に必要な支援を確実に積み上げることが叶い、子どもの行動の改善と親の幸福感の向上に着実につなげることができた。また、本事業を実施したことで、フリースクールを利用している親子の50%に当たる11家庭が低所得世帯であることがわかった。「表現シート」の結果から全ての保護者が自分自身と配偶者の生きづらさを感じていることがわかった。発達障害やその傾向が考えられる方がほとんどであり、社会で活躍できる場が少なく収入も得づらい状況であった。低所得のため子どもを社会に適應できる状態に育てるための十分な支援を受けさせることができず、貧困や孤立の連鎖に陥ってしまう状況であることがわかった。今回支援の中断に至った2ケースは母親の自閉症、境界知能、鬱病等により、本事業予算内の支援で母の心理状態を良好に維持することが困難だった。子どもの状態は改善していたが中断せざるをえなかった。
子ども・学生	不登校	②新規問い合わせを受けてから、実際に相談事業やスクール利用等の支援を1回以上利用された状況。	②問い合わせ件数と事業の利用実態の照らし合わせ。	②新規問い合わせから事業の利用につながった件数が70%以上	新規問い合わせ22件中16件（72%）が支援を利用	①聞き取りのためのカウンセリング②基本的考え方動画講座視聴③発達コンサルティングによる具体的落とし込み、というルートが確立されつつあり、動画講座というコンテンツの役割が③にスムーズに移行できるツールとなっている。支援に繋がらなかった6件については、居場所型のフリースクールを探していたケースと、人に任せて困りを解消したいケースであった。一般的なフリースクールのイメージが「居場所」であり、当法人の様な事業内容のフリースクールが他に無いため、問い合わせの際に大きな認識の齟齬を感じていた。当法人の活動の意図がより伝わりやすくなるよう「チューニング型フリースクール」というカテゴリーを掲げることとした。またその意図をHPやSNSで発信し、検索する側にスムーズに届くよう工夫したい。（別添資料参照）

子ども・学生	不登校	③法人からの支援プラン提示後に、子と保護者が申し込んだ事業の利用日数に対し、安定して参加することができている（指導者からのフォロー体制や支援者育成がうまく機能している。）	③例）子と保護者がフリースクール事業を週3回利用したいと望んでいて、実際に利用できている。等	③申し込み日数に対し、利用日数が70%以上	5月:86% 6月:84% 7月:79% 9月:97% 10月:92% 11月:94% 12月:91% 1月:92% 2月:89%	学習や人間関係の躓きが起り、5月～7月にかけて2名の出席が不安定になった。本人へのアプローチや家庭での関わり方指導等必要な支援プログラムを随時追加し、時を逃さない柔軟なフォローを行った。その結果それぞれ1か月程度で精神状態が改善し、出席状況も改善した。9月以降は利用者全員がほぼ希望通りの出席ができています。出席が不安定になった2名の内1名は保護者自身の困りが非常に強く、支援者としての育成がうまく機能しづらいケース。子どもの状況に合わせて電話相談を毎日入れる等密なフォローを行っているが、利用者の費用負担が大きいこと、指導者の精神的負担が大きい等課題がある。また、もう1名は毎日1時間ずつ定期的に睡眠の時間がずれる睡眠障害を抱えるケースであった。学習の躓きをきっかけに本来持っている睡眠障害のリズムに戻ってしまいほとんど出席できなくなったが、精神状態を改善させることで、睡眠リズムをほぼ一定にコントロールできるようになった。
その他	学習機会の不足/格差	④指導者・支援者スキルアップのための動画コンテンツの制作に向けて必要な準備を整えられ、2本分のコンテンツが撮影できている。	④動画コンテンツの制作に必要な機材が整えられ、コンテンツの内容を具体的に作れており、撮影までできている。	④機材購入ができています。使い方理解。コンテンツ内容の2本分作成撮影が行えている。	当初2本の動画講座を作成し、販売する予定だったが、1本完成後より活用しやすい形を検討し、サブスクリプションモデルの導入に変更。 素材となる動画は多数撮りためており、コンテンツの作成を進めている。（別添資料参照） 先に作成した動画講座は指導者・支援者の育成に使用している。12本販売済。	受益者：保護者。動画講座を1本10,000円で販売し、初期の支援者育成に使用しているが、新規の相談者が生活困窮家庭であることも多く、支援を密に受ける必要のある初期の経済的負担が大きいという課題がある。サブスクリプションモデルの導入で経済的負担の軽減を図ることが可能になる。また、保護者自身の困りが強い場合、初めての取り組みに不安を感じて諦めたり、なかなか一歩が踏み出せず子どもが支援につながれないケースがある。このようなケースでは保護者の気持ちを整えるツールとしても活用したい。様々なセッション事業や関わり方トレーニング等で撮りためている動画を使用することで、効率良くコンテンツの作成を行うことが可能であり、初期の支援者から指導者まで幅広く育成できるコンテンツを作ることが可能である。 今年度は当助成金で支援者3名をボランティアスタッフとして育成。来年度は指導者として採用予定。
その他	学習機会の不足/格差	⑤日々の生活の中の困りを解決していけることを、社会に広く浅く知ってもらう機会として、無料動画コンテンツを2本作成して、社会への啓発活動及び広報に使っている。	⑤動画コンテンツの制作に必要な機材が整えられ、コンテンツの内容を具体的に作れており、社会への啓発活動及び広報として公表している。	⑤機材購入ができています。使い方理解。コンテンツ内容の2本分作成撮影が行えている。啓発及び広報活動が行えている。	4本の無料動画をYouTubeで公開し、啓発及び広報活動を行っている。現在11本の動画コンテンツが完成しており、順次公開予定。 無料公開した動画をサブスクリプションに紐づけることにより④支援者育成に繋がる仕組みを構築中。	受益者：保護者、指導者。動画作成に加えて、啓発活動及び広報として下記の事業を実施した。 ・FBグループ「子育て羅針盤」開設。メンバー数145名（2月末時点）支援事例紹介等当法人のFBページと比較して一歩密度の濃い内容となっている。 ・お話会開催リアル1回・zoom2回、計3回。参加者15名。 ・zoomケースワーク会1回開催。参加者7名。 これらの事業を通して検討した結果、④⑤に対応できる形としてサブスクリプションモデルを導入することとした。フリースクール利用者の保護者と共に「広報部」を作り、発信内容や構築方法等検討しながら進めている。また、上記お話会開催をきっかけに、保護者が「母の会（仮称）」を作り月1回座談会を継続開催し、困りを抱えた一般の保護者への広報と受け入れ窓口、会員間の情報共有、新規会員のフォロー等の役割を担い始めている。

#### IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）\*

事業実施以降に目標とする状況	①子や親に発達課題のある家族や通常の養育に困難を極める家族であっても、虐待やネグレクトを生まない環境を提供できている。②対象の子が、障害や生まれた環境の区別なく社会生活に必要なコミュニケーション・読み書き計算が身に付き、働ける大人になるための学びが可能となっている。③動画コンテンツを販売し経済的負担が少なくても学べる環境を準備し、指導者育成や支援者育成拡大を推進できている。
考察等	①フリースクール事業での療育的支援の実施と保護者の育成、子どもの状況の変化に合わせたの速やかな支援の実施により親子共に前向きに課題に取り組める環境を提供出来ている。フリースクール利用者の紹介による問い合わせが増加し、新規問い合わせの72%が支援につながっている。フリースクール保護者によるピアサポートが機能し、悩みを抱えた保護者や新規会員のサポートの役割を担っている。②低所得層を対象とした無償支援の実施により可能となっている。無償支援では当初予定していた支援に限らず親子の状況に合わせて柔軟に支援メニューを追加し、より効果的な支援を提供できた。ただし保護者の困りの程度により必要な予算が高額になるケース、保護者の病状悪化により中断せざるを得ないケースがあった。今後このような難ケースの親子にも対応できる基盤を作ると共に、幼い内から適切な支援を行い難ケースに陥ることを防ぐことに貢献したい。③療育メソッドの普及方法をサブスクリプションモデル導入に変更し、低所得層、一般的な子育ての困りを持つ親、支援者、指導者等誰もが経済状態を問わず学ぶことの出来る環境を提供できるように準備している。

#### V. 活動

活動	進捗	概要
(E) フリースクール事業（対象：小学生以上の親子）	計画通り	フリースクール会員29名、2021年5月～2022年2月延べ参加者2816名 (E)無償枠利用者9名のスクール会費を週1～2回分無償とした。
親子通園事業（対象：就学前までの親子）	計画通り	利用会員1組、5月～2月延べ参加者数160名

(A・D) カウンセリング、(B)特別児童扶養手当受給へのフォロー (対象：保護者)	ほぼ計画通り	無償枠の利用者の9割が当法人のフリースクール利用者であったため、初期のカウンセリングや特別児童扶養手当受給へのフォローは別のプログラムの中で行ったこと、他1件は子が成人しており (B)は実施の必要がなかった。発達コンサルティングで支援効果を出しづらかったケースで (C) 関わり方トレーニングとカウンセリングを組み合わせることで効果につながり、新しい形の支援モデルを生み出した。5回実施。
(C)関わり方トレーニング (対象：保護者)	計画通り	ロールプレイングを行い実践的に良い関わり方を習得するプログラム。保護者の困りが強く言葉での指導では実践が困難なケースで使用。4回実施。本事業でフリースクール会費が週1〜2回無償になったことで経済的ゆとりが出来、無償枠対象者が実費で受講するケースが5回あった。
(F) セッションコンサル (対象：親子)	計画通り	親子での遊びや学習の支援が上手く成り立たないケースで無償支援メニューに追加し指導を行った。3回実施。
(G)発達コンサルティング (対象：保護者)	計画通り	無償枠の利用を中断したケースの残った予算で新たに募集した保護者に実施。子どもの抱える困りと課題の分析、問題解決のための取り組みや家庭での関わり方を指導。1回実施。
(H)訪問支援 (対象：保護者)	計画通り	母子家庭で母親にパニック障害があり当法人へ足を運ぶことが困難なケースで無償支援メニューに追加。スタッフ2名で訪問し聞き取りや指導を行った。2回実施。
(I) LINE相談 (対象：保護者)	計画通り	親子共に自閉症、知的能力境界域、鬱病のあるケースで、子の精神科退院後の関わり方指導をきめ細やかに行うために無償支援メニューに追加。毎日LINEで相談に対応、指導を行った。1か月間実施。
指導者育成 (対象：法人スタッフ)	計画通り	月1回勉強会を実施、セッションのPDCA等を通してスタッフのスキルアップを行った。 また、フリースクール利用者の保護者の中から一定レベルの支援スキルを身に付けた保護者3名をボランティアスタッフとしてフリースクールの活動の補助に入ってもらい、実践を通して育成。来年度はスタッフとして採用する見通しができた。これによって受益者の拡大や、個々への更に充実した支援の提供を行うことが可能になった。
支援者育成 (対象：保護者)	計画通り	動画講座、ペアレントトレーニング、関わり方トレーニング、発達コンサルティング、LINE相談、カウンセリング等各保護者に合った学びの機会や支援を提供することにより、着実に成果を出すことができています。
指導者・支援者スキルアップのための動画コンテンツ準備と制作	計画通り	動画講座を1本作成、12本販売。より活用しやすい形を検討し、サブスクリプションシステムの導入を決定。 無料動画8本、有料動画3本を2月末までに完成予定。当法人で日々実施しているセッション事業等で撮影している動画を基に多数のコンテンツを作り続けることが可能。
施設改修、感覚統合遊具の設置	計画通り	感覚統合遊具の設置、セッションルーム床張り替え、遊具設置場所のコンクリート張替え、下水道工事、トイレの改修・増設、キッチン改修、玄関屋根雨漏り対策、カウンセリングルームの壁塗り替えが完了。老朽化した建具の交換、窓を2重ガラスに変更、コンセントの増設を2月末までに実施予定。 感覚統合遊具を設置したことで、11月より療育メニューに「プレイセッション」を新たに設定。1月末までに延べ70名が受講、効果を挙げている。

## VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	フリースクール保護者の活動が活性化し、ボランティアスタッフや広報部、ピアサポート等様々な役割を担えるようになった。来年度より「母の会」を任意団体化し地域の広報窓口の役割を担うことを目指している。保護者の指導補助スタッフ、動画編集、事務等での雇用を行う見通しができ、法人の人的キャパシティの拡大と共に、子どもに生きづらさや困りがあることで十分に働くことが出来づらい保護者が収入を得る機会をつくり、子どもに十分な支援を行える経済基盤をつくることにつながる見通しができた。また、広報部からの提案でサブスクリプションモデルの導入を決定、経済状態を問わず学びの機会が得られること、広く浅くから深く濃くまで個々のニーズ合わせた学びを選べる入口をつくることが可能となった。「自分の知り合いを助けてほしい」という問い合わせが増加傾向にあるが、当人の問題意識が薄いことが多く直接的な支援に結びつきにくい。これらの方々の学びの一步としても活用したい。信頼資本財団から助言いただいた「チューニング型フリースクール」という新しいカテゴリーを用いた広報を行い必要とする方により届きやすい形を模索している。
---------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	「表現シート」の評価により、子どもの痼癖や自己中心的な行動、素直に行動できない、日常生活がスムーズに運ばない等、保護者が辛いと感じる全ての行動が改善し母親の子育てをする中での幸福感が増加したことがわかった。また、新型コロナの影響等保護者を取り巻く社会状況や親の生きづらさ、家庭の経済状況等の問題はほぼ変化していなかった。これらのことから本事業での親子に対する支援の効果により対象者の状況が変化することが明確になった。今後はサブスクリプションを用いた学びの機会の提供による支援者、指導者の育成と共に、現在行っているフリースクールでの支援プログラムや本助成金で可能になった感覚統合とさらにビジョントレーニング、原始反射関連のトレーニング等を組み合わせより子ども達の困りの改善につながる事業を展開したい。またこれらの効果を広く発信することによって引きこもりや貧困の連鎖等深刻化する社会課題を解決する一つの方法として社会に浸透させたい。
-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
亀岡・南丹地区スクールソーシャルワーカー	<b>実施内容：</b> 連携会議を持ち、情報共有や支援方針の共有。 <b>結果：</b> 南丹地域の教育委員会や小学校の当法人の活動への理解や所属する親子の困りへの理解が深まり、連携できる小学校が増えた。
各公立小中学校・通信制高等学校	<b>実施内容：</b> 保護者の希望に応じて学期毎にフリースクールでの活動報告書を作成し、保護者を通して情報共有や支援方針の共有。学校側の要望があれば法人と学校での連携会議を行っている。機能不全家庭の兄弟に関わる各学校が集まりケース会議を行った。 <b>結果：</b> 学校では見えにくい子どもの困りや家庭の状況を共有することで先生方の理解が深まり適切な支援や配慮が可能になっている。学校からの紹介や、スクールカウンセラーの紹介で相談事業につながるケースがあった。フリースクールへの出席を学校への出席として認める学校が増えている。民間施設と学校との連携が困難であった地域の教育委員会から、連携の検討を始めた旨と見学の申し入れがあった。
花ノ木医療センター	<b>実施内容：</b> 発達障害や二次障害を抱える子の活動や支援の状況等を保護者を通して共有。保護者自身の困りが大きいケースでは保護者自身の受診に同行、検査につなげ、子どもだけではなく困りを抱えた保護者への支援も医療と連携して行っている。 <b>結果：</b> 当法人に対するDrの信頼が深まり、不登校の親子に支援の場としての紹介につながっている。また、当法人の支援の方向性の後押しになっている。
行政機関 (亀岡・南丹地区子育て支援課・児童相談所)	<b>実施内容：</b> 課題のある家族については情報共有を行った。子の問題行動が大きい場合や保護者の養育能力が困難な家族については児童相談所と情報共有を図った。民間施設と学校との直接の連携が出来ない地域では、子育て支援課を通して情報共有を行い、学校や保育所、医療機関、保健師等が迅速に連携し、虐待や孤立への発展を防ぐ措置を行った。 <b>結果：</b> 行政機関では掴みづらい親子の実情を把握できる機関としての信頼を積み上げることができている。子どもを守る必要な措置を迅速に行うモデルケースを作ることができた。
NPO法人発達障害を考える会 ぶどうの木	<b>実施内容：</b> ぶどうの木が実施している視機能検査事業と連携し、視機能や視認知に困りのある子どもを紹介し、困りの状況を把握。当法人が日々のトレーニングをプログラムし実践、保護者に家庭での取り組みを指導。心因性の機能障害が出ている子どもについては家庭の状況等を共有し、環境の改善をサポートしている。 <b>結果：</b> 現在テスト段階であるが、ぶどうの木との連携の元、検査と実践を繰り返すことにより来年度4月から視機能を改善させるセッションを実施する見通しがついた。本助成事業で設置した感覚統合遊具を使ったセッションと連動させ、更に効果を上げることが可能であると考えている。
視機能トレーニングセンタービジョジョイ	<b>実施内容：</b> ビジョジョイが実施しているビジョントレーニングインストラクター講座をスタッフ1名が受講し、デモの子どもの視機能検査~訓練~結果までの成果報告までを行う。 <b>結果：</b> 現在デモの子どもの視機能検査~訓練を行っている途中であり、成果報告までを行った時点でインストラクターとして認定される予定。また、当法人の視機能検査や訓練についてのアドバイスをもらえる状況を作れる。
子ども若者ネットワーク	<b>実施内容：</b> 地域の福祉事業所や行政機関、民間団体の抱える課題や引きこもり・不登校等の情報共有。 <b>結果：</b> 当法人の持つ事例から、引きこもりや不登校児の発達障害との関連と適切な支援の効果、貧困の連鎖、孤立の実情等の情報を具体的に提供できる施設として認知されてきた。ネットワーク会議において、引きこもり問題の根本的解決策として幼児期・学齢期における発達への支援の重要性への理解が深まりつつある。

総合生活支援センター松花苑	<b>実施内容</b> ：就労についての相談支援場所として連携の打ち合わせを行った。 <b>結果</b> ：就労の実情を知ることができた。子どもの進路を検討する際親子が相談や就労実習につながる場を持つことができた。
ツナグなかま	<b>実施内容</b> ：今年度新たに連携。定期会議に出席し福祉施設や民間支援施設と情報共有を行った。ツナグなかまHPに当法人の情報を掲載。 <b>結果</b> ：主催者がビジョントレーニングインストラクターであったため、ビジョンジョイを紹介してもらい、インストラクターの資格を取得中。来年度4月より当法人の療育活動のメニューに視機能改善のセッションを加える。
(株)みのりの森・NPO Reframe	<b>実施内容</b> ：京都市内に住む利用者と学習の躰きがある子どもに紹介し、当法人で実施している個人プログラムと連携しながら学習支援を行った。 <b>結果</b> ：学習の躰きが軽減し、学習に取り組む意欲が向上、当法人で身に着けた社会性や自己認知と連動し、学校に通える日数が増加、中学受験にも成功した。

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。(精算金額と一致させる必要はありません)

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	18,964,396	18,058,933	95.2%
	管理的経費	323,640	324,300	100.2%
合計		19,288,036	18,383,233	95.3%

補足説明	特になし
------	------

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	無料動画作成YouTubeで発信
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法 (事例)	無償枠募集の際シンボルマークを添付してSNS・HPで発信。 購入物に添付。
4.報告書等	表現シートの統計、考察等をHPに掲載

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開しているか。	全て公開した	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査	
	<input checked="" type="checkbox"/> 内部監査	
	<input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	

XII. その他

自由記述
事業の発展と基盤強化につながった。